

東和地域で防災訓練

万一の有事に備えて

9月17日、東和地域防災訓練が東和文化センター駐車場などで行われ、地域住民をはじめ、二本松警察署、北消防署、女性防火クラブや赤十字奉仕団などが参加しました。震度6強の地震が発生し、家屋倒壊や火災が発生したという想定で行われた今回の訓練。倒壊家屋に巻き込まれた車両に運転手を取り残された設定での救助訓練や、粉末消火器、水消火器での初期消火を体験し、参加者は災害時取るべき行動などを改めて確認していました。



▲粉末消火器を使つての消火訓練の様子

二本松市小学校鼓笛パレード

ほんとの空に響き渡る音色

9月29日、「第63回二本松の菊人形」開催をPRするとともに、公德心の高揚と交通事故防止、安全な市民生活の実現の意識を高めようと、二本松市小学校鼓笛パレードが開催されました。市内15校の児童(約1,100人)と交通安全団体等の皆さんによるパレードは、本町通りコースと根崎・竹田通りコースの2コースで行われました。沿道に詰め掛けたたくさんの皆さんから温かい声援を受け、児童たちの元気いっぱいの演奏が、ほんとの二本松の青空に響き渡りました。



▲松岡通りをパレードする石井小学校の児童



▲智恵子の生家前をパレードする渋川小学校の児童

東北ブロックDMAT^{ディマット}参集訓練

大規模災害を想定しての訓練実施

9月30日、福島県内の5つの地域で東北ブロックDMAT参集訓練が実施され、市内では、DMAT訓練を受けた職員が8人いる柘記念病院を中心に行われました。DMATとは、医師や看護師などで構成される災害派遣医療チームのことです。大規模災害などの現場で、発生からおおむね48時間以内に活動できる機動性を持っており、東日本大震災では47都道府県から383チーム(1,852人)が活動しました。

柘記念病院で行われた訓練では、東北各県のDMATチームが集まり、多数傷病者対応訓練が実施され、病院や消防機関等との連携などを確認していました。



▲柘記念病院のヘリポートで、新潟県から訓練に参加したドクターヘリに疾病者を搬送する訓練の様子



▲智恵子抄を朗読する大山采子さん(写真右)と、ダンスパフォーマンスを披露する二瓶野枝さん(写真左奥)

智恵子・レモン忌あいのうた 高村智恵子の世界観を堪能

9月9日より市内各地で開催されている「重陽の芸術祭」の一環として、高村光太郎の詩集「智恵子抄」とモダンダンスを楽しむ『智恵子・レモン忌あいのうた』が、智恵子の命日である10月5日に智恵子の生家で開催されました。

序盤は、市観光大使で女優の大山采子さんによる智恵子抄の朗読がピアノ演奏に合わせて披露され、感情のこもったその語りに、訪れた大勢の観客が聞き入っていました。朗読が終わると、舞踊

家で振付師の二瓶野枝さん(福島市出身)が、智恵子自身を表現した可憐なダンスパフォーマンスを披露し、智恵子の「もがき」「苦しみ」「喜び」などを、全身で表現しました。



市民栄誉賞を受賞された方々をご紹介します(敬省略)

陸上	佐藤 智美(原セ)
セパタクロー	清水 舞夏(智恵子の森)
カヌー	鈴木 康大(針道)
	青木 瑞樹(細野)
綱引き	木幡べんてんジュニア

二本松市民体育祭・平成29年市民栄誉賞 各競技で地域代表による熱戦

9月24日、城山総合体育館・グラウンド等を会場に、第12回市民体育祭が開催されました。

開会式の席上、各種競技で全国大会などで活躍した選手等へ新野市長から市栄誉賞(4人・1団体)、佐藤体育協会長から体育協会表彰(41人・9団体)が授与されました。

引き続き行われた球技大会では、各地域の予選会を勝ち抜いた代表チームが熱戦を繰り広げ、ソフトボールは杉田チーム、バレーボールでは杉田六区チーム、卓球は岩代チームが優勝しました。



▲受賞報告をした本田さん(前列左から2人目)と正木さん(同3人目)

リリーバースが防犯功労団体表彰を受賞 若い力で地域に安心・安全を

多年にわたり地域安全活動などに貢献したとして、警察庁長官・全国防犯協会連合会長連名による防犯功労団体表彰を受けた地域安全ヤングボランティア「リリーバース」が10月3日、寺島二本松警察署長と新野市長へ受賞報告をしました。中学、高校生らで組織されるリリーバースは平成14年に発足し、各種犯罪や交通事故防止、少年の非行防止活動などを行っており、今年度の隊員数は107人。報告には、リーダーの本田拓さん(安達高校3年)とサブリーダーの正木優斗さん(同)が訪れ、リーダーの本田さんは今回の受賞を受け、「自分たちのやっていることがすごいことなんだと実感した」と喜びを語りました。

長谷十一面観世音菩薩 御開扉大祭

33年に一度の本開扉御衣替えを古式ゆかしく

二本松藩主丹羽家の祈願所であった長谷観音堂(油井地内)に秘仏として安置されている『長谷十一面観世音菩薩』の本開扉大祭が、10月7日から9日にかけて行われました。

観音様のお堂の扉は、普段は決して開けられず、33年ごとに行われる本開扉と、その中間年に当たる(本開扉から17年目に行われる)中開扉のときしか開かれることがなく、その御開扉の際に、観音様の御衣の着せ替えを行うのがこの祭事です。8日の午前零時から行われた御衣替えの儀では、本堂の全ての明かりが消され、満福寺の住職により御衣替えが行われました。

この祭事に用いられる稲わら作りや護摩木作り、御衣編みなどは、全て先祖代々の世襲制となっており、伝承されてきた祭事が、古式ゆかしく行われました。



1 静寂の中、観音様が安置されているお堂の前で行われた御護摩供養
2 御護摩供養修了後の深夜零時から、無灯火の中御衣替えが行われ、御衣替え修了後、住職の手により参拝者に一瞬お披露目された観音様

EDO TRIP ~菊花繚乱! 徳川時代絵巻~

第63回菊の祭典 二本松の菊人形

10月14日、県立霞ヶ城公園を会場に「二本松の菊人形」が開幕しました。今年のテーマは「EDO TRIP ~菊花繚乱! 徳川時代絵巻~」で、江戸時代の文化や人物、出来事などを色鮮やかな菊人形で表現しています。また今年初の試みとして、福島大学とのコラボにより実現した、学生たちの「画図百鬼夜行」と「菊」をテーマにした作品も展示されています。菊人形は11月23日まで開催していますので、ご家族皆さんでぜひお越しください。



二本松に今も残る安達ヶ原の鬼婆伝説を深く知ろう

シンポジウム黒塚(KUROZUKA)

10月15日、安達文化ホールでシンポジウム黒塚が開催されました。安達ヶ原に棲み、人を喰らっていたという「安達ヶ原の鬼婆」を葬ったとされる「黒塚」。初めに語り部の横山幸子氏から、安達ヶ原の鬼婆の話が披露された後、「黒塚」についてのシンポジウムが開かれ、パネリストに京極夏彦氏、東雅夫氏、夢枕獯氏ら著名人が登壇し、鬼婆や地域に残る伝説の意義、漫画家手塚治虫氏が描いた「安達ヶ原」という黒塚の伝説をベースとした漫画の存在など、笑いも交えながら話され、来場者たちは真剣に耳を傾けていました。



▲写真左から、京極夏彦氏、東雅夫氏、夢枕獯氏、ファシリテーターで福島大学文学・芸術学系教授の渡邊晃一氏



二本松の祭り

二本松の提灯祭り



針道のあばれ山車

歴史と伝統 二本松の秋祭り
 「二本松の提灯祭り」は、10月4日から6日まで開催され、七町が全て揃う初日の宵祭りには、平日にもかかわらず、市民や観光客ら約8万5千人が訪れました。坂の多い城下町を、若連たちの威勢のいいお囃子と、子どもたちの「わっしょい」の掛け声で、三百個の紅提灯を揺らしながら、七町の太鼓台が市内を練り歩きました。
 10月8日には、四町の若連が紋付羽織袴の正装で祭事を行う「小

浜の紋付祭り」御神輿渡御行列が行われました。今年も、全国で祭礼体験を企画している東京の団体「マツリズム」を受け入れ、体験ツアーを実施。参加者らは太鼓台を引き廻し、地元の人々と交流を深めました。
 同日の午後には、「針道のあばれ山車」が開催され、太鼓や笛の音が響く中、威勢のいい掛け声とともに山車をぶつけ合いました。通り沿いには見物客であふれ、歓声と拍手が沸きました。



小浜の紋付祭り